# 関東大震災朝鮮人犠牲者追悼式への墨田区長追悼文

**見送りに対する抗議及び要請**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2017年8月31日

墨田区長　山本　亨殿

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　公人による性差別をなくす会

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ｈttp://mndds.pairsite.com/koujinseisabetsu/

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　Eメール：nakusujim@yahoo.co.jp

１

小池[東京都](http://www.asahi.com/area/tokyo/)知事が、この９月１日開催される市民団体主催の[関東大震災](http://www.asahi.com/topics/word/関東大震災.html)朝鮮人犠牲者追悼式に、[都知事](http://www.asahi.com/topics/word/都知事.html)名による追悼文を送らないことを公表したことを受けて、東京・墨田区も、毎年、区長名で送っていた追悼文を見送ることにしたことを知りました。追悼式は毎年、都立横網町公園（[東京都](http://www.asahi.com/area/tokyo/)[墨田区](http://www.asahi.com/topics/word/墨田区.html)）で開かれ、１９２３年の[関東大震災](http://www.asahi.com/topics/word/関東大震災.html)時には「朝鮮人が暴動を起こした」といったデマによって多数の朝鮮人らが虐殺された歴史を教訓とし、犠牲者を追悼するものです。

私たちは、石原元都知事の女性差別発言をはじめとする公人の差別発言をなくすために取り組みを続けてきたものですが、墨田区長のこの決定には、自治体のトップとしての見識と責任について重大な疑いを抱かざるを得ませんでした。それは、何より、この東京都墨田区で、差別を土壌として生み出された流言飛語と残虐な人権侵害行為を歴史の教訓とする必要を、区長自身が公人として否定するものであり、これにより現在もなお解消されていない差別を増長することにつながるのではないかという懸念にもつながるものです。

２

関東大震災は、把握できている限りでも死者99,331人、行方不明43,476人、家屋全壊128,266戸、半壊126,233戸、焼失447,128戸に達する被害が記録されていますが、そのなかでも、事実無根の流言飛語（井戸水へ毒を投げ込まれるなど）による無辜の朝鮮人や中国人を大量虐殺した歴史は、数多くの資料や刑事記録によって裏付けられているものです。

政府が「不逞の挙に対して、罹災者の保護をすること」として戒厳令を敷くなか、軍人によって多くの朝鮮人、中国人が犠牲になったのみならず、流言飛語によって組織された市民集団＝自警団によっても実行されました。その惨たらしい実態は、たとえば「所謂自警団、青年団等は「朝鮮人」と叫ぶ高声に一呼百応して狼の群の如くに東西南北より集まり来たり、一人の吾が同胞に対し数十人の倭奴＜日本人＞が取り捲きつつ剣にて刺し銃にて射、棒にて打ち、足にて蹴り転がし、死せしものの首を縛り曳きずりつつ猶も刺し蹴りつつし屍体にまでも陵辱をくわえたり、婦人等を見れば両便（ママ）より左右の足を引き張り生殖器を剣にて刺し一身を四分五裂にしつつ、女子は如斯にして殺すこと妙味ありと笑ひつゝ談話せり……身体を電信柱に縛り付け先ず眼球を抉り鼻を切り落とし、其の哀痛の光景を充分眺めた上、腹を刺して殺したるものあり……。」という朝鮮人の回想や「まだ若いらしい女（女の死体はそれだけだった）が腹をさかれ、六、七ヵ月になろうかと思われる胎児が、はらわたのなかにころがっていた、その女の陰部に、ぐさりと竹槍がさしてあった」という日本人自身が残した記録（姜徳相・他編『現代史資料・６』田辺貞之助「女木川界隈」みすず書房１９６３年）によって告発されています。付近の別の住民も同じ光景を見ていることも記録されています（『労働運動研究・三七号）湊七良「その日の江東地区」労働運動研究所１９９２年）。

なぜこのような残虐な行為がまかり通ることになったのかは、平和と民主主義を発展させるうえで忘れてはならないものです。

３

関東大震災における朝鮮人等虐殺事件については、日本弁護士連合会が、2003年8月25日付けで、

（１）国は関東大震災直後の朝鮮人、中国人に対する虐殺事件に関し、軍隊による虐殺の被害者、 遺族、および虚偽事実の伝達など国の行為に誘発された自警団による虐殺の被害者、遺族に対し、 その責任を認めて謝罪すべきである。

（２）国は、朝鮮人、中国人虐殺の全貌と真相を調査し、その原因を明らかにすべきである。

とする勧告（日弁連総第39号）を内閣総理大臣あてに発しています。そして、この勧告書は、下記のように、当時の市民社会における危惧すべき状況を指摘し、この事件が今日の私たち自身に降りかかってくるかもしれないと警告しています。

「最近でも在日コリアン、特に朝鮮学校の児童・生徒に対するいやがらせがなされた事実がある。 1994年の 「北朝鮮核疑惑」 の際、あるいは1998年の 「テポドン報道」 の際に、 民族服であるチマ・チョゴリを着ている朝鮮学校の女生徒に対する多数の暴行や脅迫事件が起きたことは記憶に新しい。 そして昨年来、朝鮮民主主義人民共和国 （北朝鮮） による日本人拉致事件を同国政府が認め、拉致事件の実体が明らかにされるにつれて、 在日コリアン、特に朝鮮学校の児童・生徒に対する暴行・脅迫、いやがらせや危害の予告等が続いている。 例えば、朝鮮学校に通う子どもが、登下校中、駅のホームや電車の中で腕を捕まれる、民族衣装のチョゴリを引っ張られる、 「植民地時代に朝鮮人を全員殺しておけばこんなことにはならなかった」「朝鮮に帰れ」などと言われる、 すれ違いざまに「拉致」と言われるなどの被害を受けている。あるいは、朝鮮学校のホームページの掲示板への書き込み・手紙・電話などにより、 朝鮮学校の子どもに対する危害の予告が行われ、そのために一時的に休校せざるを得なかった例もある。」

４

巨大地震などの激甚災害直後は、情報の空白が生まれ、さまざまな流言飛語が生まれ拡散されていくことが指摘されています。それが、日常の社会関係に構造化された差別や暴力を爆発させる導火線となって、一気に、社会のなかで差別され虐げられてきた人々への残虐な人権侵害行為を大量に生み出してしまいます。そうした歴史の教訓は、一般的な関東大震災被害に埋没させてしまうことなど到底できないことです。

５

残虐行為が行われた墨田区の区長としては、現代の東京でも流言飛語などの影響により在日外国人に不当な民族差別と嫌悪感、 排斥的感情を引き起こす可能性があることを自戒すべきです。私たちは、ここに、追悼文を見送ったことに強く抗議するとともに、事件発生の原因を事実に即して究明し、その教訓をもって今後の対策に活かすことを、二度とこのような人権侵害を発生させないようにする決意とともに、内外に明らかにするよう、強く求めるものです。